

## 3日目の評議

法廷での審理は全て終わりました。3日目の評議では、これまでの議論と審理の結果明らかになったことを踏まえ、判決の内容を決めました。

### 1. 「疑わしきは被告人の利益に」「評議は乗り降り自由」

◆そもそも「被害者が急に立ち止まったため、持っていたナイフが刺さっただけである。」という被告人の言い分は信用できるか？



被告人質問でも、被告人は、『被害者が急に立ち止まったため、持っていたナイフが刺さっただけ』と言いました。

これに対し、大沢裁判員は、すでに、ひじを切られていた被害者は立ち止まったら危ないことくらいわかるはずだから、被告人の言い分は信用できないと指摘しました。

小池裁判員「普通に考えれば被告人の言い分は不自然ということで、有罪ですね」



藤原裁判長「刑事裁判には、『疑わしきは被告人の利益に』という原則があります」

大沢裁判員が指摘するように、被告人の言い分が不自然だと思われる方も多でしょう。しかし、被告人の言い分が不自然だというだけで被告人を有罪にすることはできません。この事件では、被告人にいきなり刺されたという、被害者の証言の信用性について、例えば、証言内容と矛盾する証拠はないかといったことを検討し、証言の信用性に合理的な疑いが残るときは、被告人がいきなり刺したという事実を認めることができません。

山本裁判官「では、まず、目撃者の証言からどこまでのことが確実と言えるかを検討してみましょう」



山本裁判官は、まず目撃者の話から検討することを提案しました。今回の事件では、目撃者があえて嘘をつく理由は余りないと考えられるからです。

目撃者は、被告人がナイフで刺したかどうかは見えなかったけれども、被告人が『朝倉、待て』と叫んだことはないとはっきり話しました。検察官が主張したとおり、目撃者の話は被害者の話を裏付けるものでした。

しかし、婚約者は、被告人の『朝倉、待て』という声を聞いたかも知れないが、はっきりしないと話しました。これは、被告人の言い分を裏付けるものともいえそうです。



小池裁判員「…彼女の心は、複雑なんじゃないかな」

ここで、小池裁判員は、婚約者の複雑な立場を指摘しました。婚約者は、被告人をかばいたいと思っている一方、事実を曲げるといこともしたくないと考えているのではないかと、話があいまいになってしまうのではないかと、小池裁判員はそのように考えました。そうすると、婚約者の証言は、被害者の証言の信用性に合理的な疑いを生じさせるものとはいえないとも考えられます。

岩本裁判員も西出裁判員も、被告人の言い分はおかしいと考え始めます。ただ、それまで被告人の言い分を信じていただけに、意見を変えるのが格好悪いようです。すると…

藤原裁判長「裁判官の世界には、『評議は乗り降り自由』という言葉があります」

議論をしているうちに、自分よりも相手の意見の方が説得力があると思える場合もあるでしょう。そのような場合に、意見を変えることは決して恥ずかしいことではありません。一人一人が考えていることを率直に述べ、議論を尽くすことが「評議」で最も大事なことです。

このような議論を経て、被告人が被害者の背中を刺したことが認められるということで、意見が一致しました。



### 2. 殺人未遂罪が成立するか

◆被告人には、被害者を殺す意思（殺意）があったか？

藤原裁判長「まずは、事件の発端から追ってみて検察官の主張が正しいかどうかを検討してみましょう」

殺意があったかどうかは、被告人の行動などからある程度推測することができます。例えば、「10階から人を突き落とした」という場合には、殺意があったと推測できるでしょう。

では、今回の事件の場合はどうでしょう。事件の発端から追ってみる必要があります。

◆ナイフを持ち出した時点で殺意があったという検察官の主張は正しいか？

検察官は、自宅からナイフを持ち出した時点で、被告人には殺意があったと主張しています。この主張は正しいでしょうか。

被告人が取調べの警察官に対し『刺すつもりでナイフを持ち出した』と話していたことなどからすると、殺意があったのではないかという意見もありました。しかし、被告人が追いかけていたのは被害者ではなく婚約者だったのではないかと、最初から刺すつもりなら、ナイフは利き腕の右手で持つはずではないかという反論もありました。

このような議論の結果、被告人に最初から殺意があったと認めることはできないという結論に至ります。

◆では、背中を刺すときには、殺意があったのか？

被告人はすでに被害者の腕にけがをさせていたにもかかわらず、あえて背中を刺していることや、利き腕で刺していることからすると、殺意があったと見ることも出来るでしょう。しかし、被告人は刺した直後に被害者の救護活動をしていることからすると、本当に殺意があったのか疑問もあります。決め手を欠いた評議室。そんな中…

